

ぎんれいゆ会 平成三十年十月

斑点しみに似て秋刀魚の鱗手に残る

主宰 細野恵久 福祉三期

鷓の贄西太后の銀の箸

増田和子 食文一期

秋の蝶探しものあり飛び続く

改正節夫 国際三期

街の灯に船路は遠し十三夜

國永靖子 音文六期

畦に座し一服模する案山子かな

猿橋二三雄 福祉八期

露の世や阿弥陀に託す二種廻向

加藤善巳 美八期

喜寿一年なほ露の身を心得ず

太田 實 国際十期

満月をかかげ城址の能終り

大下絹子 国際十五期

露けしや友の名消えし新名簿

中村建生 国際十五期

萩こぼれをり検診の結果待つ

藤本武子 国際十五期

秋澄むや心に沁みる唐詩選

山下 進 国際十五期

白露や母の遺せしべの甲櫛

許斐國照 食文十五期

芒原抜け出て空の高さかな

小淵政子 健福十六期

芋の露一十一アルキメテス

沖本元辺子 国際十七期

まつづくにきらめく瀬戸の秋入日

香春早苗 国際十七期

冷やかなる寝釈迦躰の蝶鉦かな

仲田愼輔 国際十七期

星月夜稽古の太鼓低く打つ

中村富美子 国際十七期

芋の露落人屋敷谷越しに

潮江敏弘 健福十八期

羸老のわが身ひとつや露葎

野見山剛 健福十八期

敬老日ホールインワンに沸く校庭

大山吉春 国際十八期

夫恋の秀句少なし月の雲

今井義和 美八二十期

露時雨双降黒き牧の牛

尾崎育久 美八二十一期

蟪蛄や拜みたおして虫食らう

黒木早苗 食文二十一期

祝ふ子も高齢となり敬老日

宮脇暁美 食文二十一期

初露つばきに椿花つばき幼く寒を待つ

藤川敏子 国際二十二期

嵐去り金木犀の花綴通

大歳敏子 健福二十二期

愁いごと内にかかえて障子はる

大田直子 生環二十二期

第二百五十四回ぎんれい句会（十月十二日開催）より